町政を問う 一般質問

6月定例会

新庁舎なぜ赤名か

A 検討の余地はない

永井　章議員

町長は庁舎位置を赤名としたが、本来、合併協定書が新町の指針であり、協定書にあるとおり、利便性など住民の合意が得られる位置でなければならないが、なぜ赤名なのか。

また、本庁舎建設以外の、サプロ問題やセシウム汚染堆肥などの解決が優先されるべきだが。

庁舎建設基本計画の策定が大幅に遅れたのはなぜか。また、特別多数議決である庁舎位置変更議案は、8月20日までに議会へ提出するのかを問う。

山碕　英樹町長

本庁舎建設については合併以来の大きな課題だ。建設検討委員会で約1年にわたって検討していただき、町内4か所の候補地から意見集約され、関係法令、評価、まちづくりの視点、地域バランスなどに基づいた結果であり、検討の余地はない。

また、本庁舎以外のいろいろな課題については並行して進める。

基本計画策定の遅れは、庁内検討委員会で慎重に検証を行ったためだ。

総合的判断に基づいて赤名に決定したものであり、議案提出は8月を目標としている。

現在の赤名庁舎

Q 肥育センター廃止後の方策は

A JA・行政一体で

永井議員

JA雲南は6カ所の肥育センターの内、仁多、吉田を残し4カ所を閉鎖したために、雲南農振協畜産プロジェクトチームが繁殖と肥育を一体的に運営する方針を出した。

運営方式は、公益法人か第3セクター方式が予定されていると聞くが、行政による多額の運営資金が必要となる。民間企業へ公募の方法はどうか。

赤来肥育センターは、繁殖基地として80頭規模の飼育計画があるが、施設の老朽化対策はどうするのか。

山碕町長

このプロジェクトチームで、雲南地区の和牛振興策を検討している。現段階では運営形態について決定していない。

資金としては、主に買い取り素畜費など初期投資として資本金1億円、運営資金5億5～6千万円とみている。

市場原理に基づく民間企業の運営については適切でないと考える。島根の和牛を考えるという視点から、JA、行政が一体となり検討している。

赤来肥育センターの修繕に関しては、現在検討中だ。

雲南市吉田町で行われた全共予備審査

老人クラブ存続を

A 話を聞き手伝う

門　眞一郎議員

飯南町老人クラブ連合会赤来支部は、社会貢献をはじめ、引きこもり対策や生きがいづくりの実施に活動してきたが、役員や事務局を担う人がいなくなり解散の危機に直面した。この現状をどう捉えているか。

高齢者福祉の受け皿として重要な組織である老人クラブを、健全な形で存続させることは本町にとって大切だと考えるが、町長の所感は。

存続には役員の負担を軽減する必要があるが、支援の考えはないか。

山碕　英樹町長

赤来支部の加入クラブ数は減少したものの、今回存続される事になり、うれしく思っている。歴代の役員、会員の皆さんの御苦労に感謝するとともに、存続に御腐心いただいた皆さんに心より敬意を表する。

老人クラブの活動はまちづくりそのものであり、取り巻く環境は難しい状況にあるが、本町になくてはならない。

負担があるとすれば、会員の皆さんの話を聞きながらお手伝いしていく。

Q 買い物弱者サービスはどうなった

A 里山コミッションに期待

門議員

昨年6月定例会で、買い物弱者向けサービスに関する質問をした。

消費者と商店をつなぐことにより需要と雇用を増加させる仕組みを提案したものだ。また、CATVを利用した買い物支援サービスはお年寄りにとって非常に難しいことについても言及した。

この1年間、町長はどういうシステムを練ったのか問う。

山碕町長

生活支援など中間支援サービスを担うNPO法人里山コミッションが本年4月に立ちあがった。立ち上げに時間を費やし、課題の検討にはいたっていない。

生活支援サービスネット会議を、商工会や社協などで立ち上げ、買い物サービスに関する調査を行いながら、提供する側、受ける側、窓口機能を受け持つ組織のいずれもが負担に感じない持続可能なシステムを構築をしていく。

町民の雇用の場をつくる仕組みというのは、大切なことだと思っているので、里山コミッションでも考えていただきたい。

CATVを利用した方法も、情報化を推進する検討会議において並行して検討を進めたい。

議員の質問持ち時間は40分です。